昔ながらの米作り 一味同心塾で花田植えまつり

▶力強い田植え囃子

昔ながらの手植えを体験する花田植えまつりが五月二十四日、上阿井にある一味同心塾で行われ、島根リハビリテーション学院の学生など町内外から約八十人が参加しました。

はじめに神事が行われ、田の神「サンバイさん」に豊作を祈願した後、真地自治会の内谷田植え囃子保存会による華やかな田植え囃子が披露されました。

続いて、参加者が手植えに挑戦。中には初めて田んぼに入った参加者もあり、泥の感触にはしゃぐ姿も見られ、悪戦苦闘しながらも賑やかに手植えを楽しみ交流を深めました。

▲学生も頑張りました

原発事故に備えて

「原子力の基本と原発事故避難者受入講習会」開催

五月十七日、カルチャープラザ仁多において「原子力の基本と原発事故避難者受入講習会」が、NPO法人奥出雲BGFやっちゃら会（清水俊行代表）の主催で行われました。

中国電力㈱島根原子力本部地域共生部の牧野誠専任部長から原子力発電所のしくみや安全対策などについて、また、吉山奥出雲町危機管理監から原発事故の際の避難者の受け入れ態勢や課題などについて説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

▲講習会の様子

清水代表は「原発事故はあってはならないが、奥出雲町が松江市島根地区住民の避難先になっていることがあまり知られていないので、多くの人に関心をもってもらいたい。今後も安心安全なまちづくりのための活動を続けたい」と話されました。

会場には放射線量測定器が用意されており、参加者は実際に手に取って測定を体験。原発事故について考えるよい機会となりました。

▲放射線の測定を体験する参加者

「いざ、出陣!」要害山山城祭

戦国武将三沢氏の遺徳を偲ぶとともに、登山者の安全と地域の発展を祈願する要害山山城祭が５月２５日、要害山三沢城跡保存会の主催で行われました。

三沢小学校の児童と地区の中学生、一般有志など約５０人が、手作りの甲冑を身にまとい武者行列を披露。ほら貝や太鼓の音を響かせながら、勇ましい姿でみざわの館から山頂までを練り歩きました。

山頂で行われた神事には、多くの来賓、地元関係者などが参列し、同保存会の田部英年会長から「戦国の世において、三沢地区は一度も戦場にならなかった平和な地。子どもたちと共に未来へ歴史を引き継ぎながら、訪れる人の憩いの場にしたい」とあいさつがありました。

また、児童たちにより戦の出陣式である「三献（さんこん）の儀」が行われ、大将役の児童にアワビ、カチグリ、コンブなどを献上。「いざ出陣じゃ。えい、えい、えい」「おー、おー、おー」と元気な掛け声が上がると、参加者から大きな拍手が送られました。

▲「三献の儀」が児童たちにより立派に再現されました

アメリカの高校生がホームステイ

五月三十一日、アメリカ、シカゴ郊外のストリームウッド高校から日本語を学ぶ生徒、教師あわせて二十三人が来町し、十戸のホストファミリーの協力のもと七泊八日のホームステイを行いました。

滞在中は、町内の小・中学生、高校生との交流や観光施設めぐり、座禅やそろばんづくりなどの日本文化体験など、様々な活動を行いました。

布勢小学校では、長縄遊び、トランプ、お手玉などの昔遊びで交流。児童や高校生たちは、はじめは緊張した様子でしたが、しばらくすると名前を呼び合ったり手をつないだりしてすっかり打ち解け、交流を楽しみました。

また、伝統産業会館（横田）で行われたそろばん教室体験（石井珠算塾）では、三級以上の腕前を持つ四年生以上の塾生と交流。高校生は、前日に自分で作ったそろばんを使って簡単な足し算や引き算を習い、慣れないそろばんさばきに苦戦していました。

滞在の最後にはさよならパーティが行われ、高校生からホストファミリーにお礼の手紙が読まれると会場は感激に包まれ、「僕の家に来てくれてとても楽しかった。帰ってしまうのが寂しい」と小学生が涙を流す場面もあり、別れを惜しみました。

短い間でしたが、お互いの文化を理解し絆を深めるよい期間となりました。

▲お手玉で対決！

▶そろばんを教える様子